

【テーマ】選挙の投票率を上げるには

	市民に関すること	議員（候補者）に関すること	行政に関すること
記録用紙	・納税者が行政に対する関心がない。政治にも議員にも興味がない。 ・議員、行政の考えを知るため議会傍聴を。 ・自分の意見がなければ投票する必要はない。 ・選挙は誰のためにあるのか。 ・選挙は市民の考えの反映。 ・市民が責任を持って投票する。 ・必ず投票に行く。 ・家族で政治の話し合いを普段からするように。 ・幼少期から選挙のことを教育する必要がある。 ・投票前に話し合いをして、誰に投票すればいいかわかるように勉強する。 ・選挙は自分たちの代弁者をつくる大切な権利。 ・市民も勉強不足。	・議員の本来の仕事が市民に見えない。仕事内容がわからない。活動を市民と共有することが必要。 ・議員の資質の問題。 ・政治の不信を取り除く。 ・候補者が政治に関心が向くようにアピールを。 ・立候補者が少ない。 ・議員が積極的に投票するように働きかける。 ・議員は公約を話すだけではなく、公約を実現して市民からの信用を得る。 ・候補者の人柄がわかるようアピールする。 ・市民に政治の中身をもっと知らせる。 ・議員は保身に走らず政策をしっかりと伝える。 ・候補者に魅力がない。政策が悪い。	・幼少期から選挙のことを教育する必要がある。 ・小中学校で政治について勉強するべき。 ・18歳では何もわからないまま投票している。幼少期から学校で学ぶ必要がある。 ・投票済証を持っていくと割引。 ・送迎バス等に子どもの描いたポスターを貼ってアピール。 ・投票所へのコミュニティバスの利用案内。 ・投票に行くための交通手段を増やす。 ・投票の時間を考える。（長くする） ・インターネットで投票ができるようにする。 ・障がい者、高齢者が投票に行けない。 ・商業施設、介護施設で投票できるようにする。 ・若者がよく利用するSNSで選挙の投票を呼びかける。 ・若者の投票率が悪いので、若者が選挙に興味を持てるように、政治に関する催しを開催する。
対応方針	・家族で政治に関わる会話をする。親が選挙に行く姿を子どもに見せるなど、家庭における教育が大切。 ・選挙は誰のためにあるのか、市民の考えを反映し1票の大切さを知ることが大事。	・議員の仕事内容が市民に見えない。活動を市民と共有することが必要。 ・議会広報を通じ、政治に関心を持ってもらえるように、身近なものに感じてもらえるように働きかける。	・義務教育や高校の教育で政治や選挙に関する教育が必要。 ・選挙権を得た18歳や1、2年後に選挙権得る高校1、2年生をターゲットに、高校を投票所にする。 ・障がい者、高齢者が投票場に行き易い環境を整備するため、商業施設、介護施設で投票できるようにする。 ・投票所のバリアフリーにする。 ・投票済証提示することによる特典を何か。